

研究課題	ICT を活用して生徒たちの主体性と対話力を高める「市民教育」を実現する
副題	「電子会議室」を活用した「学校・ルールをつくり合う道徳教育」の実践を通して
キーワード	「電子会議室」「市民教育」
学校/団体名	学校法人津曲学園 鹿児島修学館中学校・高等学校
所在地	〒890-0023 鹿児島県鹿児島市永吉二丁目9番1号
ホームページ	https://www.shugakukan.ed.jp/

1. 研究の背景

2019年度に実施した実践研究では、苫野一徳氏(専門は教育哲学)を招へいし、ICTやワークショップを活用した教育講演を実施した。講演会の際は、①生徒たち自身のスマホの持ち込み・使用を認め、②所有していない生徒には学校のタブレットを貸し出し、③スマホやPCから質問やメッセージを集約することができる「sli.do」というアプリを利用し、④スクリーン上で複数の生徒の反応や意見を同時に可視化した。これらの工夫により、挙手して発言したり、直接対話したりすることが苦手な生徒たちでも自分の考えを表現することができ、対話的な講演会となった。

このように教育講演会の実施方法を変えたことで、①「一方的な講義式では中学1年生から高校3年生までの全員が能動的に聞き考え続けるのが難しい」、②「質疑応答の時間を設けても、挙手制では生徒からの質問が出にくい」といった課題に改善が見られた。同時に、生徒の対話力が向上し、生徒・保護者・教師が共に学校や教育の在り方を考え、対話する土台作りも進んだ。

今年度も引き続き、より良い学校や社会を自ら創っていこうという姿勢とそのための資質・能力がさらに多くの生徒に備わっていくことを期待して、苫野氏が提唱している「学校・ルールをつくり合う道徳教育」を実践している。課題となってきた「対話の時間や場を確保することが難しい」という点に関して、自治体などで実際に活用されている「電子会議室」を参考にして「オンライン生徒総会」を設け、活用できないかと考えた。「対話の時間や場の確保」は、生徒間だけではなく職員間でも抱えている課題である。対面とオンライン上のやりとりを補完的に上手く組み合わせ、効果的で効率的な方法を追求する必要がある。

また、昨年度の講演会では当日だけ生徒たち自身のスマホの持ち込みを認め、初めてのアプリを使用したため、当日の状況予測が難しく、計画の際に制約が多かった。さらに、特に中学生は自分のデバイスを持っていない生徒も多く、「1人1台」での実施は不可能だった。そもそも、校内のICT活用が広がり、通常授業の日でも貸し出し用タブレットが不足する事態が起きている。そこで、BYOD環境を整備し、それに合わせたルールを整え、学校で日常的に各自のスマホ等を学習に活用する場面をつくる必要性を感じていた。

2. 研究の目的

本校では「学校・ルールをつくり合う道徳教育」の実践を通して生徒がより主体的に学校づくりに関わり、その過程を通して「市民」として必要な資質を育むことを大目的としている。背景で述べた2019年度の取り組みをさらに発展させ、学校の具体的な問題について更に深い対話ができるようにしていきたい。

そのための大きな課題が「対話の時間や場をどうやって十分に確保するか」である。これを解決するために BYOD 環境を整備し、「オンライン生徒総会」等の有効な活用方法を探りながら、生徒の主体性や対話力をさらに高めることを今年度の主な目的として設定した。

3. 研究の経過

表1は、今年度の研究の過程を時系列でまとめたものである。PTA 執行部の保護者や PTA の学校側担当者、生徒会、ICT 委員会等とも連携して取り組んだ。

表1 研究の過程

月	取組内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・BYOD 環境整備のため、校内でのスマホ利用の在り方について検討（生徒指導部・生徒会） ・学級文庫として中学・高校全クラスに設置している 菅野一徳氏（教育講演会講師）の著作（10冊）に新たに『「学校」をつくり直す』（河出新書）や『ほんとうの道徳』等3冊を追加して新年度のクラスに引継ぎ、ブックリストと行事案内を配布
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内職員研修や授業時にも、教員・生徒がオンラインと対面を併用（通年） ・講演会講師著作をもとにした入試問題やワークシートを使用し、事前指導を実施 ・パナソニック教育財団オンラインサポート ・菅野一徳氏教育講演会【1回目】 ・オンラインと対面を組み合わせでの生徒総会実施
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け貸し出し用端末を補充 （教育講演会だけでなく日常の授業や教育活動で活用し、教員も生徒も使用に慣れるため。納品が大幅に遅れ、年度内に活用できず。）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・「オンライン生徒総会」立ち上げ ・パナソニック教育財団オンラインサポート・オンラインチームミーティング
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回講演会に向けての「オンライン生徒総会」上での対話 ・パナソニック教育財団オンラインサポート
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・「オンライン生徒総会」書き込みルールの提示 ・菅野一徳氏教育講演会【2回目】
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・パナソニック教育財団オンラインサポート・オンラインチームミーティング ・成果と課題の整理、次年度に向けての展望

4. 代表的な実践

(1) 高校生徒総会

6月5日、高校の生徒総会をオンラインと対面を組み合わせで実施した。当初、7月と11月の教育講演会も、このようなかたちで実施を予定していた。（コロナ禍の影響で変更。）

議論を深めるためには、「同期/非同期」「オンライン/対面」のより良い組み合わせ方、使い分け方を工夫する必要性を感じた。



〔図1 高校生徒総会の様子〕

(2) オンライン生徒総会

①オンライン生徒総会の立ち上げ

8月に、生徒会担当者がクラッシーの校内ルームとして「オンライン生徒総会」を設置した。最初に、生徒会担当者が次のように投稿し、趣旨を説明した。

オンライン生徒総会への参加ありがとうございます。この校内グループは、苫野先生が提唱している「学校・ルールを作りあう道徳教育」の実践の一環です。異学年生徒間の対話を促したり、なるべく多くの生徒が対話に関わり、学校生活の在り方についての「なぜ？ どうして？ どうするのがよいか？」の疑問・意見を交換、議論するために立ち上げました。学校生活をより良くするために考えたり発言したりする場にして下さい。自分自身（生徒達自身）で学校生活をより良く変えられた経験ができれば素晴らしいと思いませんか？そのためにも、ぜひ建設的な、積極的な意見投稿を期待しています。

②オンライン生徒総会のルール提示

11月の第2回講演会に向けての「オンライン生徒総会」上での対話をするにあたり、書き込みルールを提示する必要性を感じた。パナソニック教育財団オンラインサポートでの助言を参考にして、次のようなかたちで提示した。以降、現在まで変更はしていない。

※「オンライン生徒総会」の書き込みのルール（2020/11/6版）

- 推奨事項（ぜひ積極的に以下のようなやりとりを行きましょう。）
 - (1)【質問】前に書き込まれているものをよく読んで、発信者やそれ以外の人に質問をしましょう。
 - (2)【意見】自分の立場を示し、できるだけ根拠や理由を示すようにしましょう。
- 禁止事項（自分や他者を傷つけないよう、以下のことを注意してください。）
 - (1)住所・氏名・電話番号など個人を特定できる内容の投稿はしない。
 - (2)公序良俗や法に違反するような投稿は当然禁止。他の人が不愉快になる表現（卑猥な表現、暴力的・残虐な表現、差別的な表現など）を使うことはしない。
 - (3)個人・団体・国の名誉・信用・プライバシーを害する行為、誹謗中傷や不利益を与えるような投稿はしない。
 - (4)他人の名前を使用した書き込み、いわゆる「なりすまし」の投稿はしない。

③オンライン生徒総会の日常的な活用

普段最も頻繁に活用されていたのは、対面で毎月実施されている生徒会の専門委員会の議事録共有だった。各専門委員会は別々の場所で開催されているが、「オンライン生徒総会」で議事録を共有することで、それぞれがどのようなことを行っているかが共有できていた。次のように活動内容の報告や提案などが「オンライン生徒総会」に書き込まれていた。

整美・ボランティア委員会議事録 2020/10/30

- 今期の目標 ・より綺麗な学校作り ・「学校が綺麗ですね」と連絡がくる
- 今月の活動内容・目標（クラスごと）
 - 1年1組 ・食堂周り、裏門の枯葉の掃除 ・限られた時間で自分の目標を探す
 （以下、省略）
- 提案 学年ごとの掃除内容の表を作る

④オンライン生徒総会の教育講演での活用

11月の第2回講演会の約1月前に次のように呼びかけ、事前に「オンライン生徒総会」上での意見表明と対話を経て講演会に臨むために活用した。

【11月19日PTA教育講演会に向けての質問・意見募集】

講師の苫野一徳先生に向けての質問や著書を読んだ感想を事前に募集します。今回の教育講演会のテーマに沿った以下のような点に関する質問を入力してください。

- 1 学級文庫にも設置してある『ほんとうの道徳』を読んでの質問
- 2 学校生活の在り方について「なぜ？ どうして？ どうするのが良いか？」の疑問・意

(3) 第1回教育講演会

講師が来校して対面とオンラインを組み合わせる予定だったが、コロナ禍の影響で急遽講師はオンラインになり、次のようなかたちで実施した。

- ◎日時 7月17日 13:30～16:20
- ◎場所 大講義室(100名程度)+各教室(10クラス)、保護者オンライン参加
- ◎講師 苫野 一徳氏(熊本大学教育学部准教授)
小林 昭文氏((株)AL&AL 研究所代表取締役、元・産業能率大学経営学部教授)
- ◎内容 演題:「学び」こそ人生最強の成長アイテム&究極のエロス
「みんなが学ぶことの楽しさを知り、学び続ける力を身につける」学校づくりに向けて
- ◎構成:前半 30～40分 講義 30分 対談
後半 質疑(Jamboardを利用して、オンラインで講師に質問。
: 講演を聞いて、何人かで話し合って「質問シート」に記入
➡ 記入したものをタブレットで撮影して、Jamboardにアップロード)

(4) 第2回教育講演会

講師2人とも来校予定だったが、またしても感染拡大の影響で急遽お1人はオンラインということになった。オンラインと対面をかけたかたちでの実施で、機材の調整に四苦八苦した。リハーサルで解決しきれず、講演中にもトラブル対応を継続することになってしまった。



〔図2 第2回教育講演会の様子〕

以下のように、事前に「オンライン生徒総会」上に持ち寄った身近な学校生活の在り方について考える時間を多くとった。

- ◎日時 11月19日 13:30～16:20
- ◎場所 体育館(200名程度)+大講義室(中学3年)+教室(高校3年)
- ◎講師 第一回と同じ
- ◎内容 演題:学校をつくり合う! なぜ? どうやって?
～「市民(シチズンシップ)教育」の実践に向けて～
- ◎構成:【前半(理論編)】(13:30～14:45)
○『ほんとうの道徳』の内容・「市民教育」の意義について講義
【後半(実践編)】(15:00～16:20)○事前にオンライン上に持ち寄った身近な学校生活の在り方についての意見から、具体的に考える。

5. 研究の成果

(1) 「学校・ルールをつくり合う道徳教育」の実践について

話し合いの場やルールづくりのしくみを整備することを生徒指導部や ICT 委員会とも連携し、学校全体で進めることができた。そのため、教育講演会当日だけでなく、生徒総会や学年での話し合いにおいてオンラインと対面を組み合わせ、生徒が自分たちの意見を表明する場面が増えた。

例えば2回目の教育講演会のしばらく後、中学2年生が「数学の授業ルールをみんなで作り直そう」というテーマで自分達の授業の在り方やルールについて話し合った。日々の自分たちの授業時の在り方を真剣に振り返り、自分たちでルールづくりをする姿が見られた。

PTA 新聞にも、初めて有志生徒メンバーが作成に協力した。その際に、教育講演の感想として生徒たち自身が選んだのが、以下のものである。

《 生徒たちの感想 》 ●意見の対立を防ぐためには、「～べき」ではなく互いの考えや思いを伝え合い、相手の考えも理解し尊重しようとするのが大切だというお話を聞いて、これからも相手の話をしっかり受け入れられるような人でありたいと思った。 ●自分一人だけで考えを突き詰めていくと徳の騎士になってしまう可能性が高いため、対話を通してみんなで考えたほうが良いと思った。 ●講演中に問い方のマジックを思い出した。 ●教育を受ける側と受けさせる側が考えていき、学校をよりよく多様性のあるものになってほしいと思いました。 ●学校の規則などにおいて、自由の相互承認が大切であるということが分かった。お互いを責め合うのではなく、尊重し合うことが大事だと改めて気付かされた。自分の中の考えが深まっていった大切な時間になった。 ●普段はあまり人に意見を出さないが、今回の講演会で積極的に意見を他人と共有することで、改めてコミュニケーションの重要さに気付かされた ●今私たちが学んでいる道徳は日本人の価値観にすぎず、それを絶対に正しい「正義」とし、徳の騎士になるのは怖いなどと思った。 ●ルールの中でお互いの自由を認め合うことでお互いの「モラル」をぶつけあうのを避けようとしたということを知り、自分たちの校則も先生と生徒、生徒と生徒の自由の相互承認のためにあるのだから、その時代に合わせて学校のみならず話し合い、校則を変えていく必要があると思った。

講演会以外の場面でも、生徒会が発案して携帯型の扇風機の利用ルールを定めたり、校内を明るい雰囲気にするために校内の木にイルミネーションを取りつけるなどの動きが生まれ始めている。

このように、生徒たち自身が学校生活を「自分たちでより良く変えられる」と実感する経験を増やし、生徒が対話力をさらに身につけること機会を設けることができたと考えられる。

(2) 「対話の時間や場を確保することが難しい」に対する環境整備・しくみづくり

生徒会活動を、対面の「専門部会」と「オンライン生徒総会」を組み合わせ実施することができた。「オンライン生徒総会」に日常的にアクセスしている生徒は多くないため、対面と組み合わせることで、アクセスするきっかけになるということと、あまりアクセスしない生徒の意見も反映する機会が確保されるということがメリットになっている。

「オンライン生徒総会」書き込みについてのルールも定めることができた。今のところ、懸念されたようなトラブルは起こっておらず、生徒は節度を守った書き込みをしている。

BYOD 環境整備については、GIGA スクール構想等の影響もあり、方向性が変わった。当初、校内 Wi-Fi 開放についてのルール作りは生徒指導部が原案を作り、ICT委員会が技術的なルールを追加するという流れで進めていた。

生徒指導部から、高校の生徒会に文化祭(修学祭)で使えるようにしたらと投げかけた。生徒会の方から「今でルールを守れないのに、新たにルール作っても守らない。現在学校で整備されている iPad が必要性を感じない。」などの意見が出て、そのまま立ち消えになった。

その後、GIGA スクール構想が現実味を帯びて、BYOD の必要性はないのではないか、ということになった。加えて、現在の通信環境では、BYOD で生徒の端末が一気に増えることで、校内 Wi-Fi の通信スピードが重くなったり、止まったりする心配もあるといった議論がなされた。

6. 今後の課題・展望

対面とオンラインを組み合わせた対話の場づくりはなされてきたので、より建設的かつ批判的なやりとりがなされるようにさらに取組を継続したい。「オンライン生徒総会」書き込みについてのルールのうち、「推奨事項」の「(1)【質問】前に書き込まれているものをよく読んで、発信者やそれ以外の人に質問をしましょう。」を指導・練習する時間をとりたい。

7. おわりに

立命館アジア太平洋大学の出口治明学長が、ある高校の教員から生徒の「探求力」を鍛える方法を問われて、次のように答えている。

「どんな学校でも校則がありますよね。校則を一条一条、もう一回読み返してください。子どもたちから『なぜ、こんな校則があるんですか?』と質問されたときに、『こういう理由で君らのためになるから』と論駁(ろんぱく)できない校則はパワハラですよ。そんなものはすぐやめてください。それぐらいのことができなくて、どうして子どもたちに探求力、問いを立てる力、常識を疑う力が大切だと教えられるんですか」。(出口 2020)

ここで述べられているように、校則や学校の在り方を問い直すことと、「探求力」や批判的思考力を育てていこうとする教科学習とはつながっている。

本校は、国際バカロレア機構から中等教育プログラム(MYP)の候補校と認められ、認定校を目指しているところである。国際バカロレア教育も多様性や批判的思考力を非常に大切にしている。今後も、授業以外の場でも生徒たちの主体性と対話力や探求力を高め、より良い学校や社会を自ら創っていこうという姿勢を育むために、生徒自身が校則や学校の在り方を問い直す実践を継続していきたい。

最後に、このような実践に協力いただいた PTA や講演会講師の方々、パナソニック教育財団、及び「オンライン・サポート」で御助言くださった中橋雄武蔵大学教授に心から感謝したい。

8. 参考文献

- ・ 苫野一徳 (2013) 『勉強するのは何のため?—僕らの「答え」のつくり方』 日本評論社
- ・ 苫野一徳 (2019) 『ほんとうの道徳』 トランスビュー
- ・ 出口治明 (2020) 「週刊ダイヤモンド」 オンライン「子どもたちに理由を説明できない校則はパワハラではないか」 <https://diamond.jp/articles/-/230806?page=2> (2021. 3. 11 アクセス)